

3. 夏季栽培用わけぎ新品種「広島 12 号」と「広島 13 号」の品種登録

1. 背景とねらい

広島県のわけぎは全国シェア 65%と全国一位の出荷量を誇ります。これまでに周年栽培技術を確立していますが、夏季は高温・長日条件下での栽培となり、生育や品質が低下し易く出荷量が激減しています。そこで、良質わけぎの周年安定出荷にむけて夏季でも栽培できる品種を育成しました。

2. 成果の内容

広島県は、JA 全農ひろしまと共同で夏季でも栽培しやすい新品種「広島 12 号」、 「広島 13 号」を育成しました。両品種の種球は平成 24 年 6 月より JA 全農ひろしまから販売されており、平成 27 年 2 月 4 日には品種登録されました。両品種の主な特性は次のとおりです。

- 1) 夏季栽培では、両品種とも高温・長日条件下でも萌芽の揃いが良く、生育も早い
ため、栽培期間を短縮でき、既存品種と比較して収量性も優れています(図 1, 2)。
- 2) 休眠の深さは「広島 12 号」は極めて浅く、「広島 13 号」は中程度です(表 1)。両
品種とも種球の掘上後に休眠打破(減圧給水処理)を行わずに植付けできます。
- 3) 種球生産では、両品種とも種球の肥大充実期(図 3)が既存品種よりも遅くなりま
す。そのため、分球が多く充実した種球を得るためには、8 月下旬に植付け、翌年
の 6 月中下旬に掘上げる作型が適します(図 4)。

3. 普及上の留意点

- 1) 両品種とも種球を譲渡・販売することは種苗法で禁止されています。種球を増殖
して販売するためには契約による許諾が必要です。詳しくは、JA 全農ひろしま
(082-846-4708)へお問い合わせください。
- 2) 種球の収穫時期が 6 月中下旬と遅いため、収穫時期を早める技術を検討中です。

(栽培技術研究部)

4. 具体的データ



広島 12号 広島 13号 既存品種

図 1 新品種の草姿

注) 既存品種は「広島 11号」

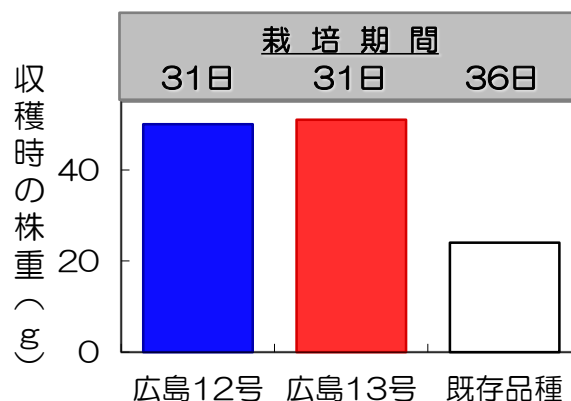


図 2 新品種の収量性と栽培期間

注) 既存品種は「広島 11号」

植付日: 2010年6月14日

調査日: 葉身 45 cm 到達時に調査



広島 12号

広島 13号

図 3 新品種の種球収穫株の様子

表 1 新品種の特長比較

品種名	広島12号	広島13号
夏季休眠導入の早晩 ^z	かなり晩	極晩
球根の休眠の深さ ^y	極浅	中

注) z: 夏季の地上部倒伏の早晩

y: 掘上直後の球根の萌芽の早晩

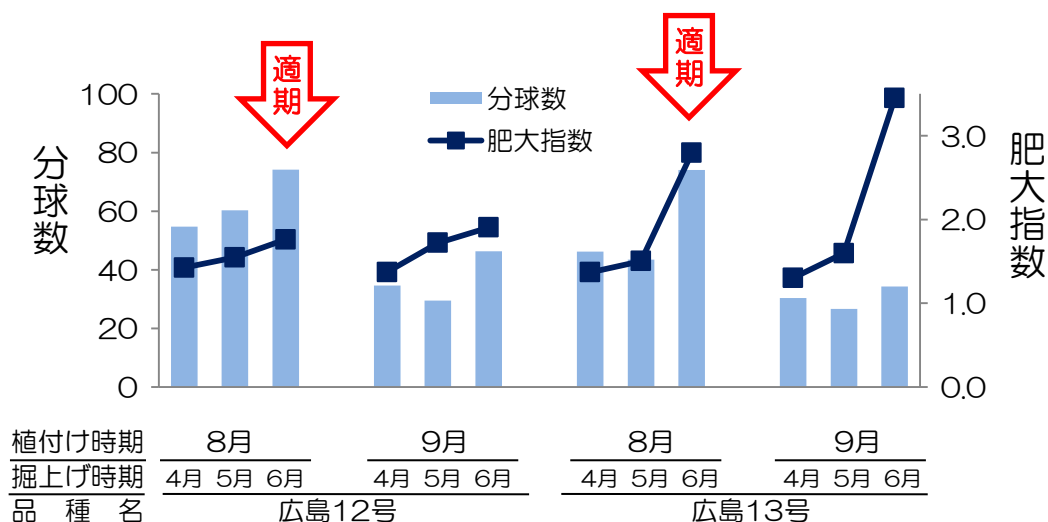


図 4 新品種の種球生産における時期別分球数と肥大指数の違い

注) 植付け: 8月(2013/8/22), 9月(2013/9/24)

掘上げ: 4月(2014/4/21), 5月(2014/5/28), 6月(2014/6/23)

試験場所: 三原市木原町

肥大指数 = 葉鞘基部径 / 交合部径